

シリーズ 4 和納12区

手作りの祭りが自慢

■今月の「おじゃまします」—地域情報ネットワーク—は、地域コミュニティ活動の盛んな和納十二区におじゃましました。

和納十二区は、和納地区の集落ではもっとも新しく、昭和五十四年に誕生した集落です。現在二百十九世帯もあり、和納地区では一番大きな新興住宅街です。和納十二区は、造成団地ということで大半が岩室村外からの転入者で、勤労世帯が大部分を占める場所です。

地区の西側をJR越後線が走り、周辺は水田地帯に囲まれ保育園、児童公園などもある静かな住宅街で好評のところですよ。



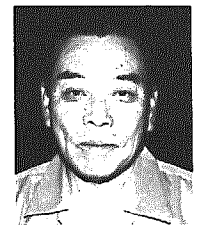
地域交流のイベントの一つ「お祭り広場」

ここは新しくできた住宅団地ということも

あつてか、はじめは地区内の交流が薄い？地区でしたが、歴代の区長さんはじめ住民全員の協力で、自治会組織が誕生してからは地区内交流が活発となり、その成果の一つとして、昭和五十八年五月には、交流の拠点となる地区集会施設（睦会館）ができました。

「和納十二区というと、いろんな人たちの混住地区でまとまりがないようにみえますが、見た目より内部はしっかりと一枚岩でまとまりがあるところなんです」と区長の皆川君平さん。

そもそもこの地区は、三十〜四十代の中堅的家族世帯が多く、子供会やPTAといった子供を芯とした活動がとくに盛んで、それに歩調を合わせるように婦人会、老人クラブ、地区役員会と各組織、各層の活動がすこぶる盛んに行われています。これらの組織や部会が総結集して行われる一大イベントの一つに「お祭り広場」があります。これは昭和六十年からはじまったもので、地区全世帯の交流をはかることを目的としてはじまり、ゲーム、出店、カラオケ大会など子供からお年寄までがみんな楽しんでるようにと各組織、部会が一致協力し、開いているもので、ことごとく回目を迎えます。これは新しいタイプの地域コミュニケーションの波として新聞報道もされたくらいで一見の価値がありますね。「このように、年間をとおして、大小様々な行事、活動を行っているんですが、何をやるにしても地区の役員さんらの協力体制がいいことですね。それと勤労世帯が多いのでむずかしい



和納12区区長 皆川君平さん (68歳)

面もありますが、反面「何かをやる」「何かをつくる」というときなどは、いろいろな職種の人が寄り集まっていますので、本当に助かりますね。それに、お祭り広場をやりだしてから、一番うれしいのが三十歳代の人を中心に、地区全体のまとまりが一層できてきたことですね」と皆川区長さん。

ところで、和納十二区も区制がしかれてから早いもので、ことし十年めを迎えます。そこで、和納十二区では十周年の記念行事として記念植樹を計画、先月十二日睦会館前で役員さんたちにより、「一位の木」が植えられました。これからは、和納十二区の区木としてみなさんから親しまれることと思います。

さて、地域づくりの叫ばれているいま、このように新しい集落ながら地区全体で何か一つの行事、活動をとおして交流をはかっていることは本当にすばらしいことだと思います。まだまだ生まれたての新しい地区ですが、これから地域コミュニティ活動にますますの期待がもてる地区ですね。

和納12区 ミニデータ	
人口と世帯数	
人口	773
男	381
女	392
世帯数	219

編集後記

■梅雨明けも、もう間近ですね。先月九日肌寒い中、岩室小学校でプール清掃がありました。その日の寒かったことでも待ちに待ったプール開きに備え、子供たちは元気いっぱいに磨きをかけていました。■それにもう一つの楽しみ。七月といえばお祭りシーズンですね。子供だけでなく大人も楽しみに季節です。今月号でご紹介したとおり、各地区で祭りが次々に行われます。ぜひ今年は、三地区の祭りを見比べてみてはいかがでしょうか。

■はや、七月号をおとどけるころになりました。梅雨が明ければ夏はもうすぐ。楽しいバカンスの計画をたてているかたもおありかもしれませんね。■ところで、先月号でまたまた編集子の「学」のなさを一面を披露してしまいましたね。実は地域情報ネットワークの石瀬編で、庚申講のご紹介をなんと甲庚講と紹介してしまいました。おまけにちゃんどルビ（ふりがな）までつけて。いやはやはずかしくなっています。ミスは「慢性病」とはいえ、本当に困ったものです。今月号もまた、この病気になるだろうな。(み)

■広報いわむる 第三一五号 昭和六十三年(一九八八年七月一日発行 毎月一回一日発行) ■発行 岩室村役場 ■編集 総務課 ■新潟県西蒲原郡岩室村大字西中八六〇(九五三〇一) ☎〇二五六一八二四二二(代) ■印刷 北洋印刷